

(令和5年度補正)

地域少子化対策重点推進交付金 実施計画書

(市町村分)

個票

自治体名

横手市

(都道府県: 秋田県)

本事業の担当部局名

総務企画部経営企画課

事業メニュー	結婚新生活支援事業		
区分	結婚新生活支援		
関連事業メニュー	4.2 新規に婚姻した世帯に対する住宅取得費用又は住宅賃借費用に係る支援及び引越費用等に係る支援(都道府県主導型市町村連携コース)		
個別事業名	横手市結婚新生活支援事業	新規/継続 (一般財源での実施も含む)	継続
実施期間	令和6年4月1日 ~	令和7年3月31日	事業開始年度 令和 3 年度
対象経費支出予定額 ※(注)1	8,700,000		円
自治体における少子化対策の全体像及びその中の本個別事業の位置付け ※(注)2	<p>(これまでの少子化対策の全体像及びその効果検証から浮かび上がった地域の実情及び課題)※全事業共通 少子化対策としてこれまで様々取り組んできたが、特に結婚支援については、令和4年度の婚姻件数が163件、婚姻率が1.92と、平成29年以降減少傾向となっている。同傾向については、若い世代が結婚に対する経済的不安を抱えていることや、男女の出会いの機会が少ないことが主な原因と分析している。</p> <p>(当年度の少子化対策の全体像及びその中の本個別事業の位置付け)          &lt;当年度の少子化対策の全体像&gt;※全事業共通          結婚支援の施策に特化した取り組みを「第2期横手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関連性や、国の「次元の異なる少子化対策」との棲み分けを行いながら、重点的に検討、実施する。</p> <p>&lt;本個別事業の位置付け&gt;          結婚新生活支援事業を実施し、経済的不安から結婚に踏み切れない層に対して補助を行うもの。</p>		
個別事業の内容 ※(注)3	1. 概要		
	【補助対象要件】		
	・所得要件	<input checked="" type="checkbox"/> 夫婦の合計所得が500万円未満	<input type="checkbox"/> 自治体独自基準の場合
	・年齢要件	<input checked="" type="checkbox"/> 夫婦ともに婚姻日における年齢が39歳以下の世帯	<input type="checkbox"/> 自治体独自基準の場合
	【補助上限額】		
	29歳以下の場合	<input checked="" type="checkbox"/> 各費用に係る合計が60万円	<input type="checkbox"/> 自治体独自基準の場合
39歳以下の場合	<input checked="" type="checkbox"/> 各費用に係る合計が30万円	<input type="checkbox"/> 自治体独自基準の場合	
【対象費目】			
<input checked="" type="checkbox"/> 家賃	<input checked="" type="checkbox"/> 住宅購入費用	<input checked="" type="checkbox"/> リフォーム費用	<input checked="" type="checkbox"/> 引越費用
【継続補助】			
継続補助規定の有無 <input type="checkbox"/> 有			
【その他独自要件】			
特になし			

2. 申請見込

①新規世帯見込	16	世帯	②継続世帯見込	1	世帯
上記のうち	ともに29歳以下	11	世帯		
	その他	5	世帯		

【世帯数積算根拠】

国保市民課、税務課へ照会し、直近の婚姻件数のうち、年齢、所得要件を満たす世帯を算出し積算  
 ・29歳以下11世帯については、令和4年度の夫婦ともに婚姻日における年齢が29歳以下の婚姻件数58件のうち、所得500万円未満の世帯数を税務課において確認し、算出。  
 ・その他5世帯については、令和4年度の夫婦ともに婚姻日における年齢が39歳以下(ともに29歳以下を除く)の婚姻件数33件のうち、所得500万円の世帯数を税務課において確認し、算出。

(参考)

【令和5年度申請状況】

実施中	17	世帯
申請世帯数見込	17	世帯
～12月(実績)	8	世帯
1月～3月(見込)	9	世帯

【金額積算根拠】

<上限額>				<積算>	
(29歳以下)	11	世帯	×	600,000	円 = 6,600,000 円
(その他)	5	世帯	×	300,000	円 = 1,500,000 円
				(継続補助)	600,000 円
				左記上限額のとおり	

3. 広報の実施予定

市ホームページ、SNS(LINE、Facebook、X)、FMラジオ、市報、情報発信アプリ(MINEBA)、デジタルサイネージでの情報提供、婚姻届提出時にチラシ配布等

少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)4 ※全事業共通	KPI項目		単位	目標値	現状値
	婚姻率		%	3.00 (令和7年)	1.92 (令和4年)
出生数		人	419 (令和7年)	334 (令和4年)	
参考指標 ※(注)5 ※全事業共通	項目		単位	直近の実績	
	合計特殊出生率			1.38 (令和元年)	
	婚姻件数		件	163 (令和4年)	
	婚姻率			1.92 (令和4年)	
個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)6	KPI項目		単位	目標値	現状値
	事業内容番号	項目			
		(アウトプット)			
	1	支給世帯実績/支給見込世帯数の割合	%	80	53 (令和5年12月)
		(アウトカム)			
1	結婚新生活支援事業に関するアンケートにおける「本事業の認知度」	%	100	100 (令和5年12月)	
2	結婚新生活支援事業に関するアンケートにおける「地域に応援されていると感じた世帯の割合」	%	80	88 (令和5年12月)	
他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)7	・都道府県との連携内容は以下のとおり (1)結婚サポーターの新規人材発掘及びスキルアップセミナーのサテライト会場の開設・運営 (2)ネットワーク推進サポーターとの意見交換の場や情報共有の実施				
民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)8	不動産会社、結婚式場、ホテル、あきた結婚支援センター等にチラシを設置し、幅広く周知を行う。				

(注)  
 1「対象経費支出予定額」には、本交付金の対象外経費を除いた対象経費支出予定額(補助率を乗じる前の額)を記入すること。また、金額の根拠となる資料(見積書等)を添付すること。  
 2「自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け」には、次の①～③を記載すること。ただし、結婚新生活支援事業において、③は記載不要。  
 ①これまでの少子化対策の全体像及びその効果検証から浮かび上がった地域の実情及び課題  
 ②当年度の少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け  
 ③過年度の本個別事業で浮かび上がった課題の分析及びそれに対する取組(ステップアップ)  
 3「個別事業の内容」には、本個別事業の具体的内容を記載すること。  
 ※個別事業を次年度以降も自立的に発展させるため、事業内容の末尾に必ず次年度以降に向けた事業の方向性を記載すること(結婚新生活支援事業においては記載不要)。  
 ※事業内容を検討する上で参考とした既存事業があれば、都道府県名又は市町村名、事業名を記載すること(結婚新生活支援事業においては記載不要)。  
 4「少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」については、自治体の少子化対策全体のKPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体は少なくとも令和6年度終了時点で、各自治体において効果検証を実施すること。  
 5「参考指標」には、各自治体の合計特殊出生率、婚姻件数、婚姻率を記載すること。  
 6「個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」には、自治体における少子化対策の全体像の中での本個別事業の位置付けを踏まえ、KPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体において効果検証を実施すること。  
 ※過去に関連する事業を実施している場合は、過去に設定したKPIを踏まえたKPIを設定すること。  
 ※結婚支援センター事業を実施する場合は、参考として直近年度の「会員登録数」「引き合わせ成立者数」「カップル成立組数」「成婚数」を記載すること。  
 7「他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を他の都道府県や市町村と連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記載すること。  
 8「民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を民間事業者との連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記入すること。